

大腸がんグループ JCOG1007が JCO に掲載されました！

今月のトピックス 2月15日 国立がん研究センター プレスリリース記者会見

JCOG大腸がんグループ JCOG1007「治癒切除不能進行大腸癌に対する原発巣切除の意義に関するランダム化比較試験」の主たる解析論文が2月9日付で [Journal of Clinical Oncology](https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/33560877/) に掲載されました。研究代表者/研究事務局の金光幸秀先生おめでとうございます！

◇ 大腸がんグループ JCOG1007 金光幸秀 先生

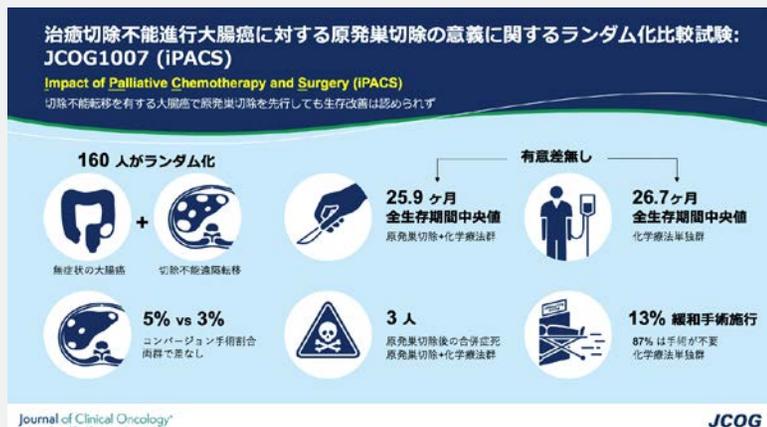
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/33560877/>

Primary Tumor Resection Plus
Chemotherapy Versus Chemotherapy
Alone for Colorectal Cancer Patients
With Asymptomatic, Synchronous
Unresectable Metastases
(JCOG1007, iPACS): A Randomized
Clinical Trial
Journal of Clinical Oncology
2021 Feb 9, Online ahead of print



金光幸秀先生

また同論文について2月15日に国立がん研究センターで記者会見が行われました。「ステージ4大腸がんの新たな標準治療を検証 切除不能転移を有するステージ4大腸がんに対して原発巣切除を先行しても生存改善は認められず」と題したリリースの詳細は [国立がん研究センターホームページ](#) よりご覧ください。



今月のトピックス JCOG1916 肺がん外科グループ 新規試験

肺がん外科グループの新しい試験「病理学的N2非小細胞肺癌に対する術後放射線治療に関するランダム化比較第III相試験 (JCOG1916) (略称: J-PORT)」が、2021年1月5日に患者登録開始となりました。コンセプト作成段階からご支援・ご協力をいただきましたJCOGデータセンター/運営事務局の皆様、その他の関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

本試験は、病理学的 N2、III期非小細胞肺癌患者を対象として、術後補助化学療法後の無治療経過観察 (標準治療) に対する術後補助化学療法後の放射線治療 (試験治療) の無再発生存期間における優越性を検証する試験です。

本試験対象患者の5年生存割合は40%程度と未だ予後不良です。その原因の一つが術後局所リンパ節再発 (系統的郭清範囲内の再発: 20%) であり、その予防が重要です。一方、術後放射線治療は局所再発予防に有効であるものの、生存期間に対する有効性は示されておりませんでした (主に有害事象が原因)。しかし、近年の放射線照射技術の向上により、現在では安全に施行可能となっております。このような背景のもとで、本試験は計画されました。

本試験の競合試験であるLung ART試験 (フランスを中心とした欧州で施行) では、術後放射線治療の優越性は証明されませんでした (ESMO2020)。しかし、当試験は、肺全摘例を11%含むなど (本試験では除外)、術後放射線治療の有効性と安全性のバランスが異なる可能性がある対象を多く含んでおり、また、放射線治療の質にも多くの問題点が指摘されています。したがって、本邦において、質の高い手術が実施された患者を対象として、系統的な放射線治療の品質保証・品質管理が十分に行われた試験を実施することは意義が大きいと考えます。また、本試験により術後放射線治療の優越性が示されれば、世界に向けて本邦のがん診療レベルの高さを示すことができます。

肺がん外科グループ、参加施設の放射線治療医および呼吸器内科医が一丸となって取り組んで参ります。ご支援・ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

研究事務局 (外科) 中川 加寿夫
研究事務局 (放射線治療) 石倉 聡
放射線治療研究事務局 佐々木 智成
放射線治療医学物理研究事務局 宮浦 和徳
研究代表者 渡辺 俊一



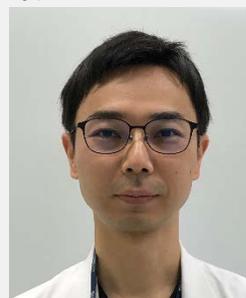
中川 加寿夫



石倉 聡



佐々木 智成



宮浦 和徳



渡辺 俊一

JCOG研究の論文公表



◇ 肺がん外科グループ JCOG0804 鈴木 健司 先生

<https://doi.org/10.1016/j.jtcvs.2020.09.146>

A single-arm study of sublobar resection for ground-glass opacity dominant peripheral lung cancer
The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery
2020 Nov 11 Ahead of Print

グループごと月間登録数



登録数月次レポート(～2021年1月)

<https://secure.jcog.jp/DC/DOC/member/report/index.html>

グループ	11月	12月	1月	合計
胃がん	54	53	56	163
大腸がん	33	61	51	145
肺がん外科	43	51	29	123
肝胆膵	19	22	26	67
脳腫瘍	30	23	12	65
婦人科腫瘍	20	14	21	55
乳がん	12	18	15	45
食道がん	9	16	14	39
放射線治療	13	10	13	36
肺がん内科	9	6	13	28
消化器内視鏡	10	7	4	21
頭頸部がん	6	1	4	11
骨軟部腫瘍	1	2	4	7
皮膚腫瘍	5	1	1	7
リンパ腫	2	3	1	6
泌尿器科腫瘍	0	0	1	1
合計	266	288	265	819

JCOG運営事務局長 中村健一より ～ 今月のひとこと ～



1月は全体で265例と、引き続き多くの登録をいただきました。グループ別で見ると、胃がんグループが56例でトップで、大腸がんグループも51例と多くの登録がありました。3位は肺がん外科グループの29例で、その次は肝胆膵グループからも26例と多くの登録がありました。

JCOGウェブサイトの研究者専用サイト「登録数月次レポート」では、バイオバンクや放射線治療グループ以外の放射線治療を含むJCOG試験への登録数も掲載しておりますので、研究者の皆さまにおかれましてはご確認いただければ幸いです。

引き続き、各グループ、各試験での登録数向上の取組みをよろしくお願い申し上げます。

担当医別月間登録数



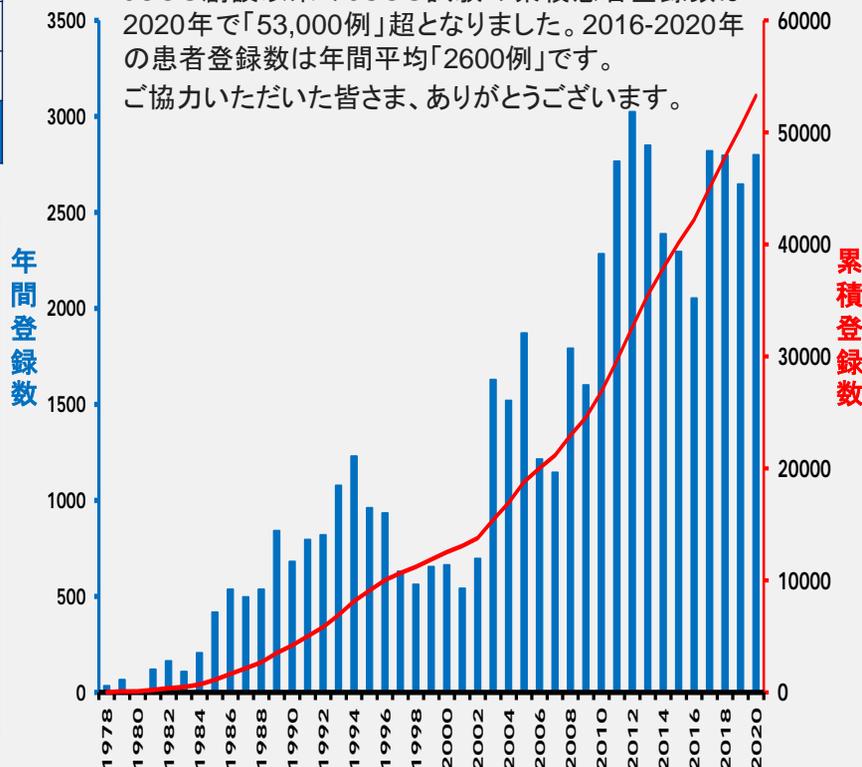
- ◇ 肺がん内科グループ(月間登録数:2)
大森翔太 先生/静岡県立静岡がんセンター
後藤康洋 先生/藤田医科大学
 - ◇ 肺がん外科グループ(月間登録数:5)
羽隅透 先生/国立病院機構仙台医療センター
 - ◇ 胃がんグループ(月間登録数:7)
大森健 先生/大阪国際がんセンター
 - ◇ 食道がんグループ(月間登録数:4)
村上健太郎 先生/千葉大学医学部
 - ◇ 婦人科腫瘍グループ(月間登録数:2)
井田耕一 先生/信州大学医学部
宮本守員 先生/防衛医科大学校
 - ◇ 大腸がんグループ(月間登録数:3)
眞部祥一 先生/静岡県立静岡がんセンター
 - ◇ 放射線治療グループ(月間登録数:2)
松本康男 先生/新潟県立がんセンター新潟病院
 - ◇ 脳腫瘍グループ(月間登録数:2)
荒川芳輝 先生/京都大学医学部附属病院
沖田典子 先生/大阪国際がんセンター
下田由輝 先生/東北大学病院
 - ◇ 肝胆膵グループ(月間登録数:3)
渡邊一雄 先生/国立がん研究センター東病院
- (担当医別最多登録数が1例のグループは割愛しています)

数字で見るJCOG



53,000例 **2,600例**

JCOG創設以来のJCOG試験の累積患者登録数は2020年で「53,000例」超となりました。2016-2020年の患者登録数は年間平均「2600例」です。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございます。



研究者情報の変更、医療機関情報の変更がある場合は、下記のサイトの手順に従ってご申請ください

<研究者情報変更> http://www.jcog.jp/doctor/todo/researcher/registration_r.html

<医療機関情報変更/施設情報変更> http://www.jcog.jp/doctor/todo/researcher/registration_f.html